

つながる  よこはま

2022年7月号

にほんごコミュニケーション

よこはま日本語学習支援センター ～横浜×日本語×多文化共生～

横浜で暮らす外国人トークリレー
第9回：任金龍（にんきんりゅう）さん

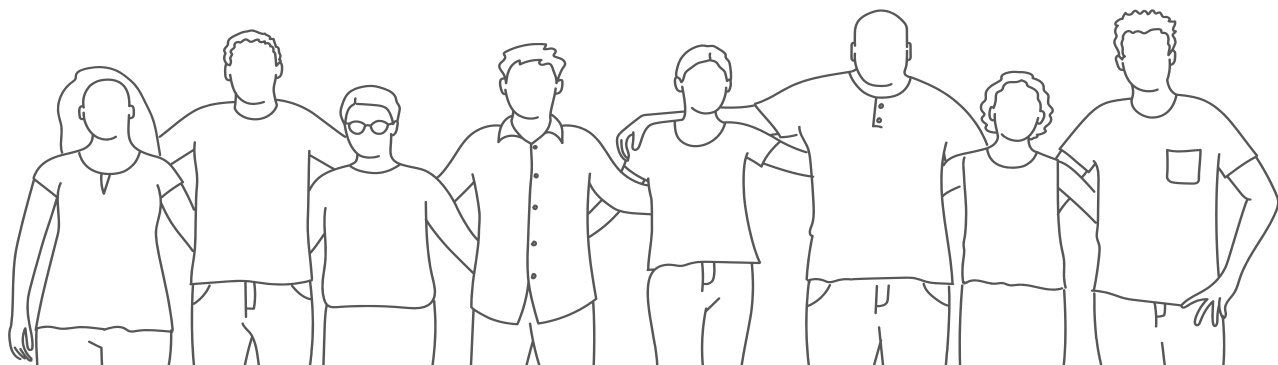
新連載 難民を支える支援とは
難民を知るための基礎知識
第1回：難民とは？
矢崎理恵さん

新連載 よこはま×日本語×多文化共生
事業を通じて目指すこと
第1回：相手も自分も大事にする
ブラッシュアップ講座

特集

子どもから大人まで、 切れ目のない日本語学習支援を目指して

横浜市・地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業
2021年度のふりかえりと、これから



2022年度第1号（通算9号）

編集・発行 よこはま日本語学習支援センター（運営：公益財団法人横浜市国際交流協会）
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5F YOKE内
電話 045-222-1173 FAX 045-222-1187 MAIL c-nihongo@yoke.or.jp

発行年月日 2022年7月5日

横浜市委託事業／文化庁令和4年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用



横浜で暮らす外国人 トークリレー



外国人のみなさんに、生活の中での日本語との関わりについて話していただくコーナーです。今回登場するのは、環境学を学ぶ留学生(大学4年)の任さん。来日当初は「あいうえお」もままならなかったそうですが、とても流暢な日本語でインタビューに応じてくださいました。幼少期の経験から環境問題に強い関心を抱き、夢を叶えるために努力し続けています。

日本に来た理由を教えてください

約15年前、住んでいた村が鉾山の開発により環境汚染され、家族で南京へ移住しました。幼少期より環境問題と隣り合わせだった私は、環境技術が先進的な日本で学びたいと考え、日本への留学を決めました。

大学では環境学を専攻し、基礎知識の習得はもちろん、「環境保全と経済成長を両立させる」という観点から、経営の知識も深めています。環境問題は経済活動などの人間の営みにより発生してしましますが、国や地域の発展のため、その活動を止めることはできません。とても難しい課題ですが、今学んでいる知識を最大限に吸収し、今後活かしていきたいと思っています。

どのように日本語を勉強してきましたか

日本語学校にも通いましたが、中でもグ

ンと日本語力が伸びたと感じるのは、ファーストフード店のアルバイト経験です。

はじめは伝わらないことはかりでしたが、失敗を恐れずに、日本人スタッフに積極的に話しかけるようにしました。また、少しでも多くの会話ができるよう、きれいな文法よりも、とくにかくたくさん単語を覚えるよう心がけました。それ以外にも、スタッフとの会話を事前にシミュレーションし、鏡の前で会話の練習(1人2役)をしたりしました。職場の雰囲気もとても温かく、スタッフだけでなく店長も、シンパルな日本語で私とのコミュニケーションを楽しんでくれて、嬉しかったです。

日本語の勉強を続ける秘訣はありますか

日本語を勉強する「目的」を明確にすること、しっかりと「リフレッシュ」することが続けていく秘訣だと思います。

私の場合は、環境学を学ぶために日本に来たので、その時々で取り組んでいること・頑張っていることのベストを尽くしたいという思いで日本語を勉強してきました。

モチベーションが下がったときは、大好きなラーメンを食べたり、バスケットボールをして乗り切りました。

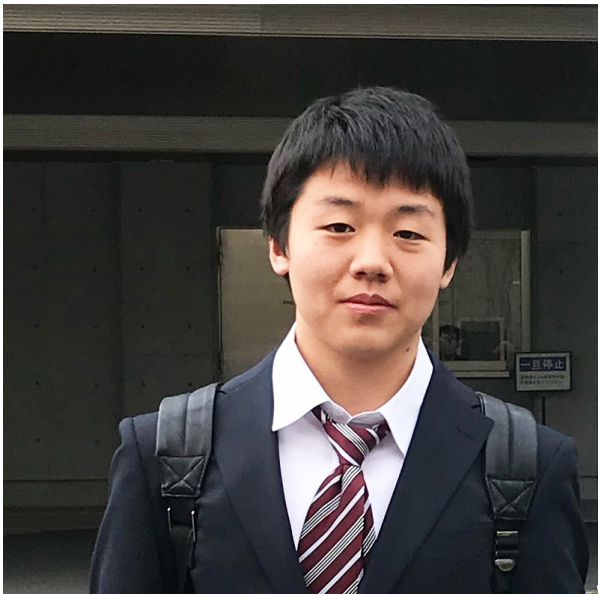
日本・中国での就職活動、それぞれの違いは?

約半年間、両国で就職活動をしました。が、求められる人材像がまったく異なると感じました。日本では人柄、将来性が重視され、スキルはそれほど必要とされないことが多いようです。また、入社後の研修が充実しているため、志望者にとってはチャンスが大きいと言えます。

一方の中国では、即戦力となる人材が最も求められる傾向にあります。このような背景から、中国の大学生は2年生から積極的にインターンシップに参加し、企業の研修も入社前に行われるのが通例となっています。加えて勉強量も多いため、趣味や他の勉強に費やす時間はあまり無いようです。私は勉強も趣味も両立できているので、とても嬉しいです。人生一度きりなので、大変なことでも挑戦し、悔いのない学生生活を送りたいと思います。

任さんの、将来のビジョンを教えてください

当初は日本で就職したいと考えていましたが、家族のために中国で働くことを決めました。来年4月より、上海にある日系企業で、経営コンサルタントとして働く予定です。そこでしっかりと経営の実務経験を積み、将来的には、電気自動車普及のビジネスマンをしている父とともに、脱炭素社会を目指した仕事をしたいと思っています。



Profile

任 金龍 (にん きんりゅう) さん
日本在住歴: 5年 中国出身

横浜市国際学生会館 2022年度留学生学生会長に就任し、学生たちの「交流」の場をつくるため、イベント企画などの活動をしています。趣味はバスケットボールで、会館施設内のコートで汗を流してリフレッシュしているそうです。明るく何事にも前向きで、明確なビジョンを持って楽しく過ごされているのがとても印象的でした。

*横浜市国際学生会館: 外国人の留学生、研究者等に宿泊施設を提供するとともに、市民の国際理解を推進するために設置された会館。指定管理者は YOKE。



ともに歩み、ともに育む

よこはま×日本語×多文化共生

このコーナーでは、日本語学習支援の充実に向けた
よこはま日本語学習支援センターの事業を、
「キーフレーズ」とともに紹介します。



今回のキーフレーズ

01

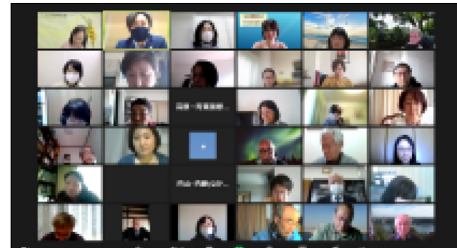
「相手も自分も大事にする」

事業名：2021年度日本語ボランティアブラッシュアップ講座
～相手も自分も大事にする日本語教室を目指そう！～

全2回の連続講座を、2つのテーマで行いました。

テーマ「著作権」と「マイクロアグレッション」に共通するのは「相手も自分も大事にする」、そして「権利を守る」ということ。著作権では「作った人と使う人」、差別概念であるマイクロアグレッションでは「発言する人と受け取る人」双方の立場と権利を守ることが大切です。それぞれの講座の内容をみていきましょう。(2022年3月開催)

普段、著作権を考えると、「このテキストや画像は使っていないか悪いか」という視点でとらえがちです。この講座では、著作権法の条文をもとに「そもそも著作権って何だろう？」に立ち返ることから始めました。著作権法の究極の目的は「文化の発展に寄与すること」。著作者の権利の保護をしなければ、継続的な文化の発展は期待できないことを確認したうえで、身近な例をあげていただきながら、著作権法の基本を理解しました。



日本語教室で使う教科書やイラストなどの教材：「このような使い方で大丈夫かな？」と心配の声も聞かれます。オンラインの場合には？など疑問も尽きません。著作者の利益・権利を守る著作権制度の概要を学び、日本語教室で起こりうるケースについて、参加者のみなさんと一緒に考えました。



「日本語教室で知っておきたい『著作権』」

講師：匂坂拓樹さん
(りのは総合法律事務所 弁護士)

その後、グループに分かれての意見交換では、「教室でやっていることは大丈夫なのか」など日頃の活動の心配事や工夫などが

たくさん挙がりました。グループで出た多くの問いに対し、講師が丁寧に対応してくださり、みなさんの「もやもや」も晴れてきたようです。著作者への配慮を考える機会となり、配慮を踏まえた日常の活動での留意点に気づいた講座でした。

参加者の声

聞きなれない法律用語を使っ
ての講座であればあまり理解
できなかったと思うが、身近な具体
例を挙げて解説してくださったの
で、非常にわかりやすかった。

著作物をレッスンに使用する際、その方法がOKなのかNGなのか、いつも判断に迷っていた。今後は、「その方法で作者が不利益を被るかどうか」に注意しながら、レッスンの準備をしていきたいと思う。

テーマ②



「悪気はなかったんだけど・・・」
—あなたも私もしているかもしれない、無意識の差別—

講師：渋谷実希さん
(一橋大学大学院・
東京大学ほか非常勤講師)

日常生活のなかの無意識の差別概念である「マイクロアグレッション」は、多くの人にとって馴染みがないことばかりではありません。でも、例えば人と話をしている「悪気がないこと」はわかるけど、なんか引くかかるとは「...」と違和感をもった経験はないでしょうか。また、異なる文化背景を持つ人との無意識なやりとりが差別につながっているとしたら？このような問題提起から、この講座は企画されました。

差別とまでは言えないけど、受け取り手にとってはあまり気持ちよくない言葉

や態度があります。発言した側は差別とは思っておらず、むしろ寝たつもりでいることもしばしばです。講座では豊富な具体例について、また、それぞれの体験をグループワークで話し合いながら、気付きにくい差別概念「マイクロアグレッション」について考えました。

ワークでは、ある場面に遭遇したとき、どのように感じるかを話し合いました。「全く気にならない」から「とても嫌な気持ちや差別を感じる」まで意見に幅があり、人によって感じ方がさまざまであることが実感としてわかりました。

明らかな差別や偏見と違い、わかりにくい部分が多いことなどに難しさがありますが、まずは自分事として捉え、意識化していくことが大切だと学びました。

参加者の声

「女性なのにすこいね」など気を遣ったつもりでも、受け取る相手にとっては傷つくこともある。日常の話し言葉の中に潜んでいる偏見や差別について改めて考えさせられた。

マイクロアグレッションの存在を知らず、気づかないうちに差別になってしまいうケースはとて多いと思う。多くの人に知ってもらう活動が必要。また、マイノリティからではなく、マジョリティが自分事として捉えることが必要であることを理解した。

へあとがき

どちらの講座でも、普段活動する教室を超えた情報交換・交流の場となり、参加者の皆さんは、意見交換から多様な考え方があることに気づいたようです。

日本語教室には、文化の異なる多様な人たちが集まっています。相手も自分も大事にして、誰もが安心して参加できる日本語教室を一緒に目指していきたい。



よこはま日本語学習支援センター 2021年度のふりかえりと、これから

子どもから大人まで 切れ目のない日本語学習支援を目指して



2020年8月に開設したよこはま日本語学習支援センター。センターでは、横浜市域の地域日本語教育の総合的な体制づくりを通じて多文化共生のまちづくりを進めるため、地域の皆様と協力したさまざまな取組を行ってきました。ここでは2021年度の主な取組を振り返り、3年目となる2022年度につなげていきます。

2021年度の事業報告は、こちらで公開しています。



担当者からひとこと

地域日本語教育の理念から個別の工夫にいたるまで、幅広く意見をうかがえるのがありがたいです。日頃から、情報提供や事業への協力など、センターの基盤を支える力になっていただいています。(藤井)



*写真は2022年度(ハイブリット開催)

11月・2月開催)

PICK UP

横浜市地域日本語教育総合調整会議

横浜市域における地域日本語教育の体制づくりの推進にあたり、各分野の識者等で構成される会議を3回行いました。地域日本語教育(教室)、多文化共生企業、外国人当事者など各視点から、多様な意見をいただきました。また、分科会として少人数のプロジェクト推進ワーキンググループを設け、地域連携、担い手育成、日本語教室について議論しました。(6月・

重点A...よこはま日本語学習支援センターの充実

携したプログラムの検討実施などを展開しました。



2021年度を振り返る

2021年度は、3つの柱、8つの取組(うち5つの重点取組A~E)で事業を実施し、地域日本語教室への支援の充実、モデル地域での関係団体のネットワーク構築の強化、新たなニーズに対応する企業と連携したプログラムの展開

担当者からひとこと

「地域日本語教育って?」をテーマに、各モデル地域より活動報告がありました。「オンラインでも日本語学習を」、「交流を通じた日本語学習支援を」など、区ごとの特徴ある取組が紹介されました。今後も事例共有の場を設けていきます。(前波)



PICK UP

2020年度モデル地域事業報告会

本事業では、区役所や地域の方たちと連携し、区域での展開を行っています。その事業報告会を、市職員対象の多文化共生セミナーとして行いました。モデル地域である磯子区、緑区からの活動報告があり、それぞれの区の取り組みや課題が紹介されました。併せて地域日本語教育の現状について、基調報告がありました。(7月開催)

重点B...地域日本語教育推進モデル地域での展開

PICK UP

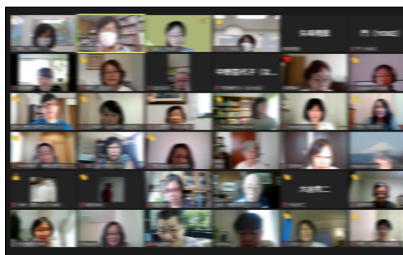
初期日本語教室「はじめての横浜〜日本語で話そう」

日本語の学習未経験者や学習を始めたばかりの人を対象に、「日本語学習」「生活情報」「交流」を大切にしました。日本語教室を、全10回で行いました。「生活情報」では、横浜での生活に役立つ情報(電車・バスの乗り方、防炎情報など)を共有しました。17名(延べ144名)の学習者が参加しました。(1月・2月開催)

重点C...産業界等と連携した新たな日本語教室の取組

担当者からひとこと

秋に行われた日本語教室「よこはまでつながるくらしの日本語」では、ICT活用講座を修了した支援者の方が、講座のサポーターとして活躍しました。受講者と参加された学習者のみなさんにとって、とても有意義な時間だったと思います。(方)



PICK UP

ICT活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」

コロナ禍での地域日本語教室の活動継続支援企画として、支援者がビデオ会議システム(Zoom)を体験し、今後の活動を考えるきっかけとなるための講座(参加編・開催編・活用編)を開催しました。基本的な操作方法、主催者としてのミーティング開催方法、さらにはオンライン学習支援とステップを踏んで学びました。

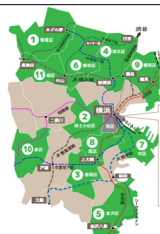
重点D...ICTの活用促進
重点E...教室等の活動継続のための連携・支援

担当者からひとこと

「日本語学習経験はあるけれど、基礎からしっかり学び直したい」という受講者が多く見受けられました。また、出席率が最後まで高く、日本語学習に対する意欲の高さがかげえました。最終回では、講座終了を惜しむ声が多く聞かれ、今後の活動への手応えを感じました。(方)

国際交流ラウンジ こくさいこうりゅう らうんじ

Yokohama International Lounges
横浜市内の国際交流サービス





2022年度 実施計画

3年目にあたる2022年度も、関係機関・団体とのより一層の連携促進を図りつつ、子どもから大人まで切れ目のない地域日本語教育（学習支援）の実現を目指し、多文化共生のまちづくりを推進します。

支援者向けの研修としては、日本語ボランティア入門・ブラッシュアップ研修、ICT活用講座等のプログラムを予定しています。学習者向けでは、企業従業員向けや外国人親子日本語教室等を行います。これに加え、ウクライナ避難民への支援を行い、地域社会への参加や生活の見通しを立てることにつなげていきます。

講座情報は、よこはま日本語学習支援センターホームページにて公開していきます。どうぞご利用ください。

基盤	取組	
柱1 体制作り推進のための 基盤の整備	柱2 市域における地域日本語 教育の推進、連携	柱3 研修、 地域日本語教育・支援
取組1 総合調整会議 取組2 総括コーディネーター配置・ 地域日本語教育コーディネーター に向けた取組 取組3 域内における 連携のための取組	取組3 域内における連携の ための取組 取組10 広報活動 取組13 成果の普及 取組14 その他関連する項目	取組5 研修 取組6 地域日本語教育 効果を高める ための取組 取組8 付随した取組 取組9 付随した取組 取組11 ICT活用
(重点A) よこはま日本語 学習支援センターの充実	(重点B) 地域日本語教育 推進モデル地域での展開	(重点C) 産業界と連携した 新たな日本語教室の取組 (重点D) ウクライナ 避難民への支援
(重点E) 地域日本語教室等の活動充実のための連携・支援		

2022年度の事業概要は、
こちらで公開しています。



スタッフ紹介 ～日本語を通し、楽しく生活しやすい横浜を目指します～

<p>事業担当</p> <p>(上段・左から) 木村 佳絵 紙谷 元己 庭山 恵太</p> <p>(下段・左から) 矢島 由佳 唐木澤 みどり 野俣 恭子</p>	<p>プログラムアドバイザー</p> <p>嶽肩 志江</p>	<p>総括コーディネーター</p> <p>(左上) 藤井 美香 地域日本語教育コーディネーター (右上) 方 舜 妃 (左下) 前波 美雪 (右下) 板垣 美紀</p>	<p>多文化共生推進課</p> <p>(左) 木村 博之 (課長) (右) 門 美由紀 (担当課長)</p>
--	--	--	---

2010年～

1994年の方が暮らしています。千葉県、神奈川県、兵庫県などで50家族、

80年代～

第三国定住難民として認定されました。母国を逃れ、一時的な庇護を受けていた難民キャンプなどから、受け入れに合意した別の第三国に移り住んだ人々。2010年、日本はアジアで初めてこの「第三国定住事業」を開始。

70年代

インドシナ難民 1975年のベトナム戦争終結前後の混乱の中、インドシナ3国(ベトナム・ラオス・カンボジア)で発足した新しい政治体制を拒み、国外へ脱出した人々。日本は2005年までに11,319人のインドシナ難民を受け入れました。

国内における難民受け入れの変遷

今、日本には、「インドシナ難民」「条約難民」「第三国定住難民」と言われる難民の方々が暮らしています。日本での難民の受け入れは70年代後半にはじめて本格化し、2010年には第三国定住難民の受け入れがスタートしました。(左図)



難民を支える 支援とは

矢崎理恵

第1回：難民とは？

ウクライナからの(避)難民受け入れが始まり、これまではテレビやネットの向こう側に映っていた「難民」と言われる人々が、この社会で共に暮らす「人」として意識されるようになりました。日本に暮らす難民への理解を深めていただくための、連載をスタートします。(全3回)

難民支援の現場から ～ただ傍らにいる～

難民と他の移住者で大きく異なる点は、難民の方々の多くには「帰国」の選択肢がない、ということです。

学生時代に民主化運動に参加し国を逃れたMさん。無国籍のまま日本で生まれ育った子どものために帰化も考えますが、愛する母国の国籍を捨てることに大きなためらいがありました。そんなMさんが帰化を決意したのは、若い時に別れたままの父親が、余命数か月の宣告を受けたときでした。「最期に一目会いたい」と思ったMさんにとって、帰国できる唯一の方法が、帰化をし日本人として母国を訪れるというものでした。結局、Mさんの帰化申請の結果を待つことなく、お父上は他界されました。

いつも思います。私たちはMさんの傍らにいて何ができるだろうか。それは「ただ傍らにいる」ということだけなのかもしれません。



次号では支援活動について理解を深めます。
←さほうと21 矢崎理恵さんプロフィール

難民認定と在留特別許可

「難民認定制度」により他国の保護を求める人は、何らかの方法で上陸した後、難民認定申請を行う必要があります。

日本における難民認定基準

難民認定審査の基準となるのは、1951年に採択された「難民の地位に関する条約」の第一条です。そこには、「難民とは、『人種、宗教、国籍もしくは特定の社会的集団の構成員であること、または政治的意見を理由に』迫害を受けるおそれがある人々」と記されています。この難民の定義に照らし合わせて、難民認定の審査が進められます。

人道的配慮による在留特別許可

難民認定手続の中で、難民の基準を満たしていないものの、戦争や国内紛争など、難民と同様にやむを得ない理由で出身国に帰ることができない人に、「人道的配慮による在留特別許可」が付与されることもあります。そのような方々が日本に在留する人の数は3,289人(1982年)と2021年と、難民認定者の数を大きく上回ります。

よこはま にほんごきょうしつ しょうかい
横浜にある日本語教室の紹介

Vol.01



日本語教室ってどんなところ？どんな人が通っているの？
 横浜市にたくさんある「地域の日本語教室」をもっと近く
 に感じて、あなたも参加してみましょう！



Pick Up

ボイス日本語クラブ (緑区)



あなたの近くの
 日本語教室は、
 ここから探せます

<http://www.yokeweb.jp>



どんな教室？

水曜クラスと木曜クラスがあり
 ます。時間は10:15-11:45、会費
 は1か月300円です。
 1対1〜2名の少人数でレッス
 ンをします。お花見などの課外
 イベントもあります。

場所：みどり国際交流ラウンジ
 JR 横浜駅 宮地下鉄
 中山駅 徒歩2分



教室から、ひとこと

中国やペルーなど8カ国の人たちが
 通っています。
 日本語が初めてでも大丈夫！ふだん
 の生活で使う言葉など、みなさんの
 目的に合わせて楽しくにぎやかに
 勉強しています。



教室のかわいい
 情報は、こちら



申し込み

TEL 070-6466-8566
 MAIL kjijunp@gmail.com



どんな人が通っているの？



スリヤマート・シーパタイさん
 (ラオス人民民主共和国)

来日年数：16年
 趣味：バーベキュー、アニメを観ること
 好きな日本語：仲間
 最近覚えた日本語：ゲリラ豪雨



日本語で、どのようなことが
 できるようになりたいですか？

日本語を書いたり、読んだりできない人を助けてあげた
 い。初めて日本に来たとき、たくさんの人に助けてもら
 いました。自分も同じようにやってあげたいです。



日本語教室に入ったきっかけは？
 また、どうやって今の教室を知りましたか？

日本語を読めるようになりたいと、ずっと思っていました。
 いどこに相談して、ボイスに通っていた、いとこの友だち
 から、この教室のことを教わりました。



日本語教室のいいところを
 教えてください。

いろいろな国の人たちと話せて楽しい。自分の国と違う
 ことがあって面白いです。間違った日本語を使うと、
 ちゃんと説明してもらえるので、勉強になります。

よこはまし ない こくさいこうりゅう しょうかい
横浜市内の国際交流ラウンジ紹介コーナ-

つづき MY プラザ
 (都筑多文化・青少年交流プラザ)

TSUZUKI MULTICULTURAL & YOUTH PLAZA

都筑区に住む外国人を
 応援しています！



ラウンジからのお知らせ

都筑区って、どんなところ？
 「港北ニュータウン」という住みやすい
 エリアが広がっているところ
 です。センター北駅、センター南駅には
 大きなショッピングモールがあるので
 お買い物も楽しめます。
 子育てにも人気のエリアです。

つづき MY プラザは外国人やボランティア、中学生・高校生世代が
 活動したり相談したり、気軽に立ち寄ることのできる「居場所」です。
 国際交流ラウンジとして、中・高校生世代を応援する場として、
 人と情報をつなぎます。



*外国語対応
 英語・中国語・スペイン語
 ラウンジが開いている時間に
 相談することができます。



Access

市営地下鉄 センター北駅
 徒歩3分

Address

横浜市都筑区中川中央 1-25-1
 ノース・ポートモール 5F

Open

月～金：10:00-21:00
 土日祝：10:00-18:00

Closed

第3月曜、年末年始

TEL: 045-914-7171
 e-mail: my-plaza@tsuzuki-koryu.org

*このコーナーでは、国際交流ラウンジの情報を掲載します。掲載ご希望の場合は、YOKEまでお問合せください。

★ あつめてみました！

なつ
夏のオノマトペ



日本語には、「オノマトペ」がたくさんあります。会話・小説・マンガ・テレビなどでよく使われるので、覚えると、とても便利です。

あなたの国には、どのようなオノマトペがありますか？
下の絵は、海水浴での様子です。日本のオノマトペをたくさん見つけました。
右側にある例文を見ながら、どういう時に使うのか、考えてみてください。



オノマトペ (onomatopoeia) とは？

声や音、人や物の状態や動きなどを音で表したことば。



紹介したオノマトペの例文
同じオノマトペでも、いろいろな意味・使い方があります。ぜひ調べてみてください。

- ①太陽が、ギラギラ照りつける。
- ②葉っぱが、ゆらゆらと揺れている。
- ③雲が、ふわふわと浮いている。
- ④ボールをポーンと投げる。
- ⑤シャッターをカシャツと押す。
- ⑥ペチャクチャおしゃべりする。
- ⑦犬が、ワンワン吠える。
- ⑧海にぶかぶか浮かぶ。
- ⑨ワイワイ騒いで、盛り上がる。
- ⑩太陽が、ジリジリと肌を焦がす。

神奈川

外国出身の皆さんが選ぶ
わたしの横浜・神奈川おすすめスポット

横浜・神奈川には、楽しい場所がたくさんあります。
おすすめスポットに、ぜひ出かけてみましょう！



レポート
アンドレアス・アドルジャンさん
インドネシア / 横浜に住んで5年

仕事で日本にきました。ホテルマンをしています。サイクリングが大好きで、自転車で京都まで行ったこともあります。日本は、どこに行っても清潔できれいなのが良いですね！

赤レンガ倉庫前は、ベイブリッジと一緒に撮影できるおすすめスポット！心が癒やされます。



好きな場所は？
(ベスト3)

- 1 赤レンガ倉庫
- 2 横浜中華街
- 3 鎌倉

一番好きな場所の
おすすめポイントは？

赤レンガ倉庫から見える景色が大好きです。大きな旅客船が港に入っているとき、とても素敵な写真が撮れます。夜は、倉庫全体がライトアップされるので、とてもきれいです。

今までで1番
美味しかった食べ物？

横浜市西区にある、有名なお蕎麦屋さんの天ざる蕎麦が、大好きです。天ぶらは、特にエビが好きです。これからも、たくさん食べに行こうと思います。



横浜観光情報 | レジャーを楽しみながら、日本語や日本文化に触れよう！

横浜市内の観光情報や、イベント情報を見ることができます。
英語、中国語、韓国語などで見ることができます。

公益財団法人 横浜観光コンベンション・ビューロー



こまったときは
横浜市多文化共生
総合相談センター



045-222-1209
t-info@yoke.or.jp



横浜で暮らしている外国人から、11の言葉で相談を受けます。
相談は0円です。区役所などと電話をつないで、相談もできます。

月曜日～金曜日
10:00～17:00 (受付は16:30まで)
第2・第4土曜日
10:00～13:00 (受付は12:30まで)



2022年7月号



つながる  よこはま

にほんごコミュニケーション

Yokohama NIHONGO Support Center

<やさしい日本語版>

この冊子の英語版は、
こちらから読むことができます



TOPIC

日本のオノマトペをあつめてみました！
夏のオノマトペ

わたしの横浜・神奈川おすすめスポット

アンドレアス・アドルジャンさん

日本語学習に役立つ場所の紹介

日本語教室 ボイス日本語クラブ（緑区）

国際交流ラウンジ

つづき MY プラザ
（都筑多文化・青少年交流プラザ）

日本語を勉強したい方は、
こちらからお読みください



発行：よこはま日本語学習支援センター（運営：公益財団法人横浜市国際交流協会）

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協カセンター5F YOKE 内

電話 045-222-1173 FAX 045-222-1187 MAIL c-nihongo@yoke.or.jp

横浜市委託事業／文化庁令和4年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用

